



「福澤育林友の会」ニュース

第32号 発行日2017年8月1日

福澤育林友の会

東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部

TEL:03-5427-1050 FAX:03-5427-1190

<http://ikurin.jp/>



「異常気象と森林」

福澤育林友の会

会長 渡部 直樹

(慶應義塾常任理事)



今年の夏の天候は酷暑というだけでなく、各地で異常気象ともいえるものを頻発させています。7月初めには北九州を中心に記録的な大雨が降り、多くの人命を奪った大災害が引き起こされました。

私たちは、2015年9月の研修旅行で、塾員である田島信太郎氏が経営する日田市中津江村にある田島山業を訪問して、機械を駆使した間伐システム等を見学し、楽しい一日を過ごさせて頂きました。今回、テレビの報道番組の中で、日田市付近の河川が氾濫し、大量の大木が流木となり、濁流に巻き込まれている映像を見るにつけ、田島さんのご家族とその山林の無事を祈らざるを得ません。

このような異常気象は、地球レベルで環境のバランスが崩れている結果だとされ、その原因については、ある部分では惑星としての地球の長期的変動の一部と見られるものの、多くはこの200年間の産業の発展がもたらした影響とされています。人類が自らの生活を豊かにしようとした、森林の伐採、農地の開発、産業化による化石燃料の大量使用といった行為が、意図せざる結果として、私たちの首を絞め始めているのです。

地球が誕生した46億年前ころは、二酸化炭素量は今の20万倍もあったそうです(平成28年度森林・林業白書)。やがて、海中の生物が光合成をするようになると、二酸化炭素は酸素の供給に用いられるだけでなく、二酸化炭素自体が生物の化石として石灰岩や石油となって地下に蓄えられました。4億年前に生物が陸上生活を始めると、植物は大型化し森林となり、大気のバランスは、ようやく現在の地球の姿に近づいたといわれています。しかし、この200年、地球は人間の活動というこれまでとは異なる要因によって、違う方向に向かいました。われわれは経済成長の代償として、空気中の二酸化炭素30%の増加と、これを固定化するはずの森林の減少(毎年、日本の面積の3分の1程度)を得たのです。

わが国の森の多くは人工林であり、私たちの祖先は、森を育て、その恵みを利用し、再生させるという文化を持っていました。これは、わが国の環境を守る上で大きな働きをしたといえます。しかし、残念ながらこの循環プロセスは、うまく稼働しているとは言えません。もし、このプロセスが復活すれば、地球環境の維持のための一助となるだけでなく、自然災害自体も、減少させる働きをすると期待されます。この視点を共有なさっている友の会会員の皆様には、育林による循環プロセスのより一層の進展に対し、ご支援をいただけますようお願い申し上げます。

年輪のように広がったご縁 - 「慶應志木の森」20周年記念式典裏話 -

池田 卓也

(慶應義塾志木高等学校教諭)

3月19日(日)、多くの参加者に見守られ、志木高らしく手作り感満載の「慶應志木の森」20周年記念式典を挙行できました。ここではその裏話を。

本格的に準備に動き出したのは前年3月。「志木森」のコーディネーターの吉田正木さんと連携しつつ、井澤智浩教諭以下6名の有志教員で実行委員会を組織し、当時の高橋郁夫校長(現・常任理事)に相談。その場で賛同頂き、先生を通じて清家篤塾長(現・学事顧問)、長谷山彰常任理事(現・塾長)、渡部直樹常任理事への出席依頼から始めました。時期が時期であり、お一人でもご来駕下されば有難いと思っておりましたが、何とお三方ともご快諾。予想外の展開に大喜びしていたところ、今度は後任の高橋美樹現校長・岡本真治事務長の尽力で、“「志木森」開設の恩人”長島昭元常任理事、今回の契機を作って下さった高橋郁夫前校長、同じく在任中に現地で生徒・教員と活動下さった下村裕元校長も駆けつけて下さることに。幸運は重なるもので、吉田さんのご紹介で速水亨さんの基調講演とともに、福澤育林友の会研修旅行「慶應志木の森を訪ねる旅」ともタッグを組むことに成功。一昨年夏の本校「志木の森ツアー」に同行下さった学校林運営委員会事務局(管財部)、ならびに林業三田会の皆様にも文字通り強力なサポートを頂きました。



そして当日。式典後の懇親会では上記の皆様や「志木森」OB諸君はもとより、下草刈りに幾度も加勢下さったOB保護者の皆様とも親しくお話ができ、ご一緒に「志木森」最大の功労者のお一人、故鐵野善資元校長のご冥福をお祈りできました。

こうして「志木森」の年輪のように広がった皆様とのご縁。このご縁がなければ今回の式典は到底成功しませんでした。皆様に感謝

申し上げます。なお、その様子は現在最終調整中の記念誌、その名も『nenrin 年輪』に掲載予定です。ご参加頂いた方には完成次第お送りしますので、ご笑覧頂けましたら幸いです。

今後とも「志木森」へのご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

学生時代の森林体験を振り返って

森 茂 之

(慶應義塾志木高等学校 1997 年卒・理工学研究科 2003 年卒)

慶應志木の森 20 周年記念式典に参加させていただいた。20 年前に植えた木々たちが、見上げきれないほどの高さに成長していた。慶應志木の森活動の代表として参加して以来、高校時代の植樹や下草刈り、大学時代の「清水の森」（海瀬様寄贈）での間伐や枝打ち作業、また卒業後も継続的に慶應の森に訪問させていただいた。海瀬様、速水様、吉田様をはじめ林業関係者と長島先生をはじめとする塾関係者の、言葉に表しきれないご尽力のおかげであり、この場をお借りして心より御礼申し上げます。



今は森林と直接関係しない立場にいるが、それでも学生時代に森林体験で得た、私の軸となっているものも多い。

まずは、現地に足を運び実体験することの重要性である。森林作業は話で聞くのと実体験では全く異なる。長島先生から教わったが、植樹前後で木や苗木に対する意識が一転する。いかに実際に触れることが、実務をし、管理し判断する上で大切な身をもって感じた。IT や AI 技術がいかに進展しても代わることのない貴重な経験であった。

もう一つは、未知の領域で計画し、実行していく気概である。たとえば間伐体験では、想像できない広さの森全体の中で、多くの木々を間伐するが、伐り方、倒し方など 1 本 1 本の特性に応じた判断や丁寧な作業が迫られる。そこに経済性や人の管理、技術、経験といった様々な要素が含まれる。また 1 本だけでは、森全体を見たら焼け石に水のようなものだが、そこに風穴を開け森全体を変えていく考え方というの、社会に出て仕事をする上で重要な訓練となった。



最後は、出会いである。育林友の会の尊敬すべき方々との出会いは、人生の厚みとなっている。くしくも式典当日が、志木の森立ち上げを最前線で陣頭指揮された鐵野元志木高校長の命日だと聞いた。常に夢を語り、将来に活動が継続する仕組みを創造する、まさに新しいことをはじめるリーダー



シップを目の前で勉強させてもらった。その後、学校林や森林活用が広く話題になってきたことを鑑みれば、育林友の会各位の“全社会的先導者”たることを痛切に感じ、後に継ぐ責任の重さを改めて感じている。

さて、志木の森の木々には既に背丈は越された。次は我々の肩幅より太い大木となって再会する日を楽しみにしている。森林活動に携わる醍醐味である 10、50、100 年後のことを考えるとき、その将来にむけて先導すべく今できることを考えていきたい。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

お知らせ

FSC認証を取得した南三陸材(慶應の森を含む)が、授業の教材や学校施設の一部に使われておりますので、3点ご紹介します。

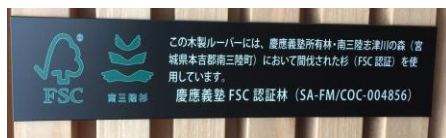
- A** 平成28年度、慶應義塾普通部2年生3学期の技術科授業において、トレイ付ペン立てを製作するために、慶應の森からの間伐材を試用しました。これまではヒノキを使用していたそうですが、スギの方が柔らかく加工が容易で、生徒達の負担が軽減したと高い評価を得ており、平成29年度も使用継続予定です。



B 横浜初等部ベンチ4台

- B** 横浜初等部の校舎3階図書館(智勇のひろば)のテラスに、南三陸材の木製ベンチ4台が設置されました。初等部生には好評で、先輩方が植樹し、大きく生長した木々を製品にして後輩達が利用することで実を結びました。

- C** 三田インフォメーションプラザ(平成29年4月末竣工)内の木製ルーバーに南三陸材を使用しました。三田キャンパスへお越の際には、1階にグッズショップも併設されておりますので、是非お立ち寄り下さい。



C 木製ルーバー



A 仕入れ材と作品



平成28年度 福澤育林友の会 会計報告

会員：158名(平成29年7月1日現在)

平成28年度	収入	支出	摘要	
前年度繰越金	5,500,966			
会費	1,345,000		H28年度会費(148名分)	会費の口座振替について 平成29年度会費の口座振替予定日は平成29年9月25日(月)を予定しています。
事業参加費	1,394,000		シンポジウム・研修旅行	
利息	48		普通預金利息	
寄附		1,000,000	慶應義塾へ寄附	
通信費		410,719	ニュース・案内等発送通信費	
事業経費		1,728,874	シンポジウム・研修旅行	
手数料		18,446	会費引落サービス手数料	
当年度収支	2,739,048	3,158,039		
次年度繰越金	5,081,975			

【慶應義塾への寄附】

本会会則の目的にある「慶應義塾の学校林の保育に関する支援を行う。」こととして、年度末に残余金の一部を慶應義塾へ寄附しました。寄附から支出した事業・内容については、慶應義塾から連絡を受けて、後日ご報告予定です。